

令和5年度 第2回長浜市市民協働推進会議 次第

（令和6年3月21日（木）午後1時30分～
長浜市役所本庁舎3階 3-B コミュニティルーム）

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 市民協働推進計画に基づく市民協働の仕組みづくりについて 【資料1】
令和5年度の実施状況

(2) 市民協働推進計画の改定について 【資料2】
改定スケジュール及びアンケートの実施

4 その他

5 閉 会

市民協働を推進する9つの仕組みづくり

資料1

基本施策（9つの協働の仕組み）			事業例
01	多様な主体の協働を進める仕組みづくり	中間支援機能の強化をはじめとする、多様な主体間の連携を促進する仕組みをつくる	中間支援機能の強化
02	地域づくりを推進する仕組みづくり	地域づくりを担う組織の機能強化を図るなど、地域づくりを活性化する仕組みをつくる	まちづくりセンターの機能強化
03	みんなで議論する話し合いの仕組みづくり	みんなが当事者意識を持って活発な議論が行えるような話し合いの仕組みをつくる	円卓会議の開催
04	新しいお金の流れを事業支援に活用する仕組みづくり	市民協働のまちづくりの推進に必要な資金の調達と効果的な活用を図る仕組みをつくる	コミュニティファンドの設立
05	新しい形の共助を構築する仕組みづくり	シェアリングエコノミーの推進による新しい形の共助を推進する仕組みをつくる	シェアリングエコノミーの推進
06	情報共有・活用を図る仕組みづくり	各主体間の情報のやり取りを活性化する仕組みをつくる	情報共有サイトの創設
07	協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり	市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくる	コミュニティカレッジの開催
08	市が保有する情報を活用して課題を解決する仕組みづくり	市が保有するデータを活用し、新たな視点から地域課題を発見・解決する仕組みをつくる	データの公開と活用推進
09	先端技術を活用した地域課題を発見・解決する仕組みづくり	先端技術を活用してこれまでにない新しい方法で地域課題を解決する仕組みをつくる	実証実験への参画

1

令和5年度も担い手不足を解消するため、多様な人が関わりやすい活動を推進する取組を重視

- ✓ 想定を上回る人口減少やライフスタイルの多様化に伴う忙しさにより、特に担い手不足が深刻化
 - ⇒ 自分にあった関わり方ができる組織・活動を増やす取組や参加していない人の目線で日常を少し変える取組に力を入れることで、**若者・女性・関係人口を含む幅広い人が関わりやすいまちづくりを推進**

▶ 多様な人が関わりやすい活動に変えていくために必要な3つの視点

① 楽しい

- ・ 世代によって、活動をはじめのきっかけや続けるうえで大事にするポイントが違うことを理解する

② 多様な関わり方ができる

- ・ ライフスタイルの変化や忙しさへの対応が必要
- ・ 後継者が出にくい既存の仕組みを変えることも必要

③ 個人の主体性が発揮できる

- ・ 個人の「やってみたい！」が実現できることで、やらされ感がなくなる
- ・ 個人の主体性が発揮できると、団体としての主体性も生まれてくる

若い力を地域の力に ～実践から感じたポイント～

	シニア層	ワカモノ
はじめるきっかけ	使命感・義務感	おもしろそう
進め方・手法	形式的	実質的
継続	使命感・義務感	楽しい
活動の視点	地域課題の解決	未来思考

ジテラボ vol.02「地域を支援するとは？」話題提供者 馬袋真紀さんのスライドより引用

【出典】：地域づくりを支援する人のためのケースブック（一財）明石コミュニティ創造協会

「自分にあった関わり方ができる社会」

- ・ 多種多様な団体の活動を推進し、自分にあった関わり方ができる活動の機会を増やすことにより、様々な場面で人間関係の交差・拡大が生まれ、さらに活動が活発化する社会



2

1 多様な主体の協働を進める仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

各主体単体では解決できない課題を、多様な主体の協働により解決を図るため、各主体のつなぎ支援など、中間支援機能の強化をはじめとする、多様な主体間の連携を促進する仕組みをつくります

◆中間支援機能の強化

- ・令和5年度も引き続き、市民協働センター（中間支援組織）が、自ら事業を実施するのではなく、中間支援という立場に軸足を置いて重点的・専門的な支援を行う
- ・積極的に地域に出向き、地域づくり協議会や市民活動団体にヒアリング
- ・県内の中間支援組織へのヒアリングや市内の他分野の中間支援組織との連携

◆市民協働センター・協働推進系の機能・役割分担

機能・役割	市民協働センター	市民活躍課（協働推進係）
地域づくり協議会支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議や組織体制の見直しなどの支援 ・ コーディネート人材などの育成（地域活力プランナー含む） ・ 事業実施にかかるつなぎ支援（※特に民間連携） ・ 市が行う地協支援に対するサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地協のあり方や支援の方向性の見直し ・ 地協の包括的な支援（事務的なやり取り） ・ 事業実施にかかるつなぎ支援（※特に庁内連携）
市民活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体の設立や法人化などについて専門的な見地からの支援 ・ 活動を充実させるためのつなぎ支援 ・ コーディネート人材などの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民活動支援のあり方の見直し ・ 人材のすそ野をひろげる取組（若者起点の新たな取組や地域おこし協力隊の活動など）
資金調達	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動に必要な資金調達方法の支援 ・ 各種補助金等の情報提供 	
情報発信・収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働を進めるためのつなぎ支援に必要な人材データの蓄積 ・ 各種媒体による情報発信 	

1 多様な主体の協働を進める仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

各主体単体では解決できない課題を、多様な主体の協働により解決を図るため、各主体のつなぎ支援など、中間支援機能の強化をはじめとする、多様な主体間の連携を促進する仕組みをつくります

◆市民協働センターの活動

市民活動支援

- ・ 市民活動団体データベース管理 【登録団体 85団体】
各団体への定期メール・お知らせ、ホームページへの掲載
- ・ 市民、市民活動団体、高等学校、医院の個別相談対応
（内容） 団体設立／助成金申請／企画づくり／事業構想／他団体とのマッチング／広報

地域づくり協議会支援

- ・ 24地区の地域づくり協議会、地域活力プランナーの支援
訪問相談、メールニュース配信、個別相談
（内容） 話し合いの場づくり／他団体とのマッチング／計画づくり／組織活性化／助成金申請サポート／広報／視察先選定

情報収集・発信・印刷

- ・ 市民協働センターホームページ運営
- ・ 市広報「さざなみ通信」記事掲載
- ・ Facebookによる情報発信 【フォロワー1,027人】
- ・ 市民協働チャンネル「こほくらす」 【配信済 5回】
- ・ 印刷室（大型プリンター、輪転機等） 【利用 272件】

facebook 

資金調達支援・顕彰

- ・ 活動に必要な資金調達方法の相談 【助成金申請支援3件採択】
- ・ 各種補助金等の情報収集、プッシュ型情報提供
- ・ 顕彰 おうみ社会貢献賞（推薦） 受賞1件

相談

- ・ 個別相談 60件
- ・ 定期相談「相談と雑談の間ワークスペース」の開設
毎月 第2木曜日 10時～19時半 【12回】
毎月 第4土曜日 13時～17時※ 【12回】
長浜まちづくりセンター、きのもと交遊館で開催
- ・ 「どうする!?大相談会」 4支援機関による合同相談
【相談件数 36件、内定期相談 16件、大相談会 5件】

人づくり・つながりづくり

- ・ 市民協働セミナー 【2講座】
- ・ 市民活動に役立つ「学びの4レンチャン」 【4講座5回】
- ・ 「こほくらす」ワークショップ 【2講座】
- ・ 県内各市民活動支援センターの視察 【6カ所】
- ・ 各中間支援機関との意見交換、事業協働
- ・ 事業共催「長浜まちなかフェスタ」10/29
「みんなでつなげる編みものアート」12/7～3/3
「わ！輪！O!! みんなでつながる広場」2/25
- ・ 「つくる未来展」開催（米原市主管／びわ湖東北部地域連携協議会）

組織体制

- スタッフ 所長、コーディネーター（1人）
- 事務室 さざなみタウン（ながはま文化福祉プラザ内）
- 常駐日 水曜日・木曜日（月、金、土曜日は訪問等）

1 多様な主体の協働を進める仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

各主体単体では解決できない課題を、多様な主体の協働により解決を図るため、各主体のつなぎ支援など、中間支援機能の強化をはじめとする、多様な主体間の連携を促進する仕組みをつくります

◆さざなみタウンでの主体間連携

（文化福祉プラザ、まちづくりセンター、図書館、市民協働センター、社会福祉協議会、ビジネスサポートセンター、商工会議所）

「どうする!? 大相談会」 9/30（土）

図協 社 商 比

ボランティアからソーシャルビジネスまで、地域での幅広い活動に関する合同相談会。相談件数：12件

相談対応：日本政策金融公庫2人、長浜ビジネスサポート協議会2人、ボランティアセンター（長浜社協）3人、市民協働センター2人

「長浜まちなかフェスタ」 10/29（日）

フ 協 協 地 社 商 比

「まちなかのフェスタで見つかるはじける笑顔」をテーマに、さざなみタウン全館を使った地域文化祭。さざなみタウン開館後初の全機関連携イベント。コミュニティカレッジ形式の「さざなみカレッジ」を開催。

参加者 8,161人

オープニング・クロージングイベントさざなみカレッジ、昔遊びコーナー、長浜バイオ大学の皆さんと遊ぼう、子ども環境実験講座、ハロウィンや楽しい日本語スタンプラリー、取り組みましょう！廃食油の活用、防災・防犯フェア、花の寄せ植えをつくりました、北星高&農高サイトによる作品販売、健康チェック&相談、バザー、eスポーツ、フードコート、マルシェ&キッチンカー、多国籍キッチンカー、ふるまい餅

「光の祭典・さざなみイルミネーション」

フ 協 協 地 社 商 比

3回目となるイルミネーション。来館者が作ったペットボトルのオーナメント3373個を飾りつけ。

ペットボトルでオーナメントを作ろう 制作日11/23,11/26

光の祭典 点灯式12/7、点灯期間12/7～2024.1/28

「みんなでつなげる編みものアート」

フ 協 協 地 社 商 比

「私たちは“まち”にどのように関わられるのか」をテーマに、編みものを通して、親しみやすく魅力あるまちの空間を人々が自ら創ることにチャレンジ。

参加者数 約100人、応募編みもの155枚

「編みもの作品募集」12/7～1/31、「はじめての編みものワークショップ」12/7、1/10、「編みもの自習室」12/14、1/11、「子ども学び座 ポンボンマスコット」1/12、「編みものつなぎワークショップ」2/1、「木に飾りつけワークショップ」2/3

展示期間：2024.2/3（土）～3/3（日）



「わ！輪！O!! みんなでつながる広場」 2/25（日）

長浜・米原・彦根で活動する地域団体や市民活動団体の交流イベント。長浜市、米原市、彦根市の連携事業「つくる未来展」を同時開催。中学生と高校生がファシリテーターとなり、2つのプログラムを実施。参加者55人

「みんなでつながる！トーク・フォークダンス」

向かい合った相手と順番に1分間トーク

「お悩み解決！ Let'sハマコン！」

市民活動団体の事例紹介とアイデア出し

「交流会〇わ」



5

2 地域づくりを推進する仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

地域づくり協議会の事務局機能の強化やまちづくりセンターの役割明確化により、地域づくりを担う組織の機能強化を図るとともに、参加しやすい組織づくりを推進するなど、地域づくりを活性化する仕組みをつくります

◆地域活力プランナーの設置

- ・地域活力プランナーを10地域に20人設置
- ・4月27日（木）に令和5年度委嘱式を開催
- ・地域活力プランナー同士が、相互に取組を理解し、応援し合える関係を構築する場として、地域活力プランナー連絡会を3回開催
 - 6月7日（水）：研修、取組内容の発表・意見交換
 - 10月18日（水）：研修の振り返り、意見交換
 - 3月13日（水）：活動報告会（活動報告・意見交換）



◆まちづくりセンターの指定管理制度活用促進

- ・令和5年度時点で、19のまちづくりセンターのうち16が指定管理制度を活用
- ・市議会の議決を経て、令和6年度から新たに七尾まちづくりセンターが指定管理制度に移行予定



◆まちづくりセンターの整備

- ・地域づくりの拠点となるまちづくりセンターについて、老朽化や耐震性などの課題を抱える「神田まちづくりセンター」の整備
 - 令和5年9月～令和7年3月 改築工事
 - 令和7年4月～ グランドオープン予定



神田まちづくりセンター完成予定図

◆その他の地域づくり協議会への支援

- ・地域づくり協議会の活動事例を学ぶセミナーを開催
- ・地域活力プランナー未設置の地域づくり協議会を訪問
- ・市民協働センターのコーディネーターによる相談対応

6

2 地域づくりを推進する仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

地域づくり協議会の事務局機能の強化やまちづくりセンターの役割明確化により、地域づくりを担う組織の機能強化を図るとともに、参加しやすい組織づくりを推進するなど、地域づくりを活性化する仕組みをつくります

◆関係人口による地域づくりの活性化

◇田根地区における大学生のネットワークづくり

- ・地域おこし協力隊が中心になって田根地区と連携する大学が増加
- ・今年度関わっている大学
慶應義塾大学・小林研究会
東京大学・フィールドスタディ型政策協働プログラム
専修大学・大崎ゼミ
京都橘大学・クロスオーバー型課題解決プロジェクト（新）
早稲田大学・地域連携ワークショップ（新）
その他、地域の大学生 等
- ・8月に慶應義塾大学、東京大学、早稲田大学が田根地区を訪問した際に地域住民や地元企業を交えた交流会を開催
- ・田根地区に関わった大学生が継続して地域と交流
- ・次年度に向けて新たな大学との連携を模索中



◇地域と大学との連携

- ・長浜まちなか地域づくり連合会の米川まつりにおいて、滋賀県立大学や長浜バイオ大学が運営に参画
- ・武蔵野美術大学が産学連携プロジェクトにより余呉地域を中心に活動

<参考> 地域コミュニティの活性化に関する連携協定締結

生活協同組合コープしがの移動店舗「あったか便」と、株式会社平和堂の「平和堂移動スーパー」を軸として、地域の高齢者をはじめとする買い物が困難な方への生活支援・介護予防をはじめ、移動店舗の各停留所が地域のコミュニケーションの場として機能し、地域が主体となったさまざまな見守り活動や支え合い活動に広がっていくような地域共生社会を目指し、関係機関が連携

R5.3.23 連携協定締結

長浜市・生活協同組合コープしが・長浜市社会福祉協議会・地域づくり協議会（余呉・上草野）



R6.2.7 連携協定締結

長浜市・株式会社平和堂・長浜市社会福祉協議会・地域づくり協議会（伊香具・杉野・高時・びわ）



長浜市・生活協同組合コープしが・長浜市社会福祉協議会・地域づくり協議会（神田・田根・西黒田）



3 みんなで議論する話し合いの仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

関係者が当事者として対等な立場で議論できる場を設置するなど、みんなが当事者意識を持って活発な議論を行い、相互理解と協働へとつながっていく場となるような話し合いの仕組みをつくります

◆話し合いの場づくりに関する支援

- ・多様な人が関わりやすい地域づくり活動に変えていくために、地域づくり協議会が行う話し合い場づくりを支援

●長浜まちなか地域づくり連合会

- ・長浜地連の暮らしデザイン懇談会において、「子どもを中心に、子ども目線で大人が考える」をテーマに開催されたトーク・フォークダンス（9/9）や円卓会議（9/29）の開催を支援
- ・トーク・フォークダンスでは、地域の中学生と大人約50名が参加、ファシリテーターが出したお題を基に子どもと大人が対話し交流
- ・円卓会議では、地域で子どもに関わる異なる立場の方による意見交換と、「地域で子どもたちにできること」を考えるグループワークを実施

●浅井湯田地域づくり協議会

- ・地域計画策定に向けた役員会議の話し合いの場、取組み支援
ホワイトボードミーティングを取り入れたファシリテーション
地域のイベントでの意見ヒアリング方法提案
- ・地域づくり活動に少しでも多くの人に関わってほしいという思いを受け「湯っ田り子育ておしゃべりカフェ」（2/27）を開催
子育て世代の地域の困りごと、地域との関りに関するトーク



9

4 新しいお金の流れを事業支援に活用する仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

寄付やふるさと納税等を活用した基金を設置し、地域課題の解決に取り組む団体を支援するなど、多様な主体が連携し、新しいお金の流れを創出することで、活動に必要な資金の円滑な調達や効果的な活用を図る仕組みをつくります

◆新しいお金の流れの検討

- ・中間支援組織の法人化スケジュールの見直しに伴い、コミュニティファンドの検討よりも、事業の再整理や地域づくり協議会への支援機能の検討を優先
- ・引き続き新しいお金の流れの創出に向けて検討

10

5 新しい形の共助を構築する仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

活用されていない個人や組織の資源を活用し、個人間で支え合いやシェアを行う取組を推進するなど、公共サービスを補完する新しい形の共助を推進する仕組みをつくります

◆シェアリングシティカレッジへの参加

- ・シェアリングエコノミー協会が主催するさらなる事例創出を目的とした「オンラインカレッジ」に参加
- ・働き方、関係人口・観光、モビリティをテーマに、自治体や事業者からの事例発表を中心とした内容

◆シェアリングエコノミーの普及に取り組む地域おこし協力隊

- ・「長浜市内でのシェアリングエコノミーの普及」をテーマにした地域おこし協力隊を募集し、1名を採用、11月から活動開始



◆シェアサービス事業者「Another works」と長浜市が連携

- ・地方創生を推進する複業マッチングプラットフォーム「複業クラウド for Public」を展開する株式会社Another worksと長浜市が連携し、行政へ複業人材を登用する実証実験を開始
- ・9月4日に連携協定を締結し、3職種で複業人材を募集
 - コミュニティデザインアドバイザー（こども若者応援課）
 - ビジョン構想パートナー（政策デザイン課）
 - 人材開発アドバイザー（人事課）
- ・3職種の募集に57件の応募があり、3名のアドバイザーを決定
- ・実証実験の期間は11月から翌4月末までの6か月間
- ・各担当部署のプロジェクトをアドバイザーが支援



11

6 情報共有・活用を図る仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

情報収集・発信の強化や各主体間の情報ネットワークの構築など、各主体間の情報のやり取りを活性化する仕組みをつくります

◆ローカルメディアと連携した情報発信 “みんなでつくる市民協働チャンネル「こほくらす」”配信

- ・地元のローカルメディアと市との市民協働事業として、地域づくり協議会や市民活動団体の取組を、インターネット番組「こほくらす」としてYouTubeで発信（奇数月第4土曜日18時～、5回配信済み）
- ・取り上げた地域 「六荘」「余呉」「長浜」「高月」「南郷里」
- ・「こほくらす」市民サポーター養成ワークショップ開催（2回）



◆SNS等による情報発信

- ・FacebookやInstagramを活用し、市民活動団体等の活動発信
- ・市職員などを対象にしたSNS勉強会の開催

◆クラウド型グループウェアによる情報共有

- ・引き続き、自治会長に対して市の情報をLINE公式アカウントで情報発信



◆活動団体の情報収集・発信

- ・市内で活動する市民活動団体などの情報の収集と発信
 - 市民協働センター登録団体数：88団体（R6.3月13日現在）
- ・「つくる未来展」の開催（米原市主管／びわ湖東北部地域連携協議会）



12

7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくります

◆長浜市役所まちあそび部

- ・高校生・大学生による若者目線のゆるいまちづくりとして、令和5年度から長浜市役所まちあそび部として実施
- ・長浜市・米原市・彦根市在住・在学中の高校生・大学生がチームとなって、地域の大人と協力しながら、「まちあそび」を実践する取組
- ・部員数 高校生3校7名、大学生8校25名
- ・今年度、行ったまちあそびとして、学校給食の試食、フルーツ飴づくり、ラテ・アート体験など、地域の事業者の方に協力いただきながら「まちあそび」を実施



学校給食の試食



フルーツ飴づくり



ラテ・アート体験

13

7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくります

◆コミュニティカレッジ

- ・学びを通して、
 - ①多くの市民が楽しみながら、社会に関心を持ってもらう場
 - ②市民同士がつながり、それが新たな市民活動へと飛躍を期待する場
- ・実行委員会形式で市民と一緒に事業を企画・実施
- ・今年度も対面方式で開催

11月25日（土）13時～17時 / 高月まちづくりセンター 25講座 264名が参加

2月18日（日）13時～17時 / 長浜まちづくりセンター 30講座 400名が参加



◆市民協働セミナー

- ・“協働”をキーワードに、市民活動や地域組織との連携のあり方を考えるセミナーを開催
- ・第1回 テーマ：“協働”について考える 【参加者16名】
(8/18) 講師：阿部 圭宏さん（まちづくりスポット大津 代表理事/しがNPOセンター代表理事）
- ・第2回 テーマ：“地域づくり”について考える 【参加者14名】
(10/6) 事例発表：池田 金夫さん（高時地区地域づくり協議会）

14

7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくりま

◆市民活動に役立つ「学びの4レンチャン」

- ・市民活動をされている方に実践的な学びを深めるためのセミナーを連続開催
- ・10月～1月で全4回開催

第1回 テーマ：やってみようCanva 【参加者14名】

(10/11) 講師：奥村 美佳さん（Code for kusatsu 副代表）

第2回 テーマ：非営利団体のお金のこと 【参加者16名】

(11/29) 講師：大川 千里さん（前ながはま市民活動支援コーディネーター）

第3回 テーマ：ホワイトボード活用会議術 【参加者20名】 【参加者16名】

(12/13.20) 講師：西川 実佐子さん（ホワイトボード・ミーティング®認定講師）

第4回 テーマ：SNSを活用した情報発信 【参加者26名】

(1/17) 講師：小幡 渉さん（株式会社おとどけ 代表取締役）



7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくりま

◆地域おこし協力隊制度の活用

- ・協働の担い手づくりを推進するための核となる人材として地域おこし協力隊を募集・採用

令和4年3月～ 空き家を拠点とした大学や企業との連携による地域活性化



堀田隊員



令和4年10月～ 楽しみながら地域に関わる大学生のネットワークづくり



中村隊員



令和5年11月～ 長浜市内でのシェアリングエコノミーの普及



辻本隊員



7 協働の担い手を育成・確保する仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

協働に必要なスキルを持った人材の育成、市民が市民を教える学びの場の創出や多様な働き方の推進による協働事業の活性化など、市民協働の担い手となる人材を育成・確保する仕組みをつくりま

◆相談と雑談の間ワークスペース

- ・市民活動やまちづくり活動をしている人などが「雑談」以上「相談」未満の話ができるフリースペースを開設
- ・今年度から月2回（第2木曜日・第4土曜日）開設しており、場所もさざなみタウンだけでなく、北部サテライト・きのもと交遊館でも実施
- ・アイスブレイク大会や「編みもの自習室」、「アートお助け！相談室」など、交流の機会づくり、他の支援機関と連携した相談会を開催

◆どうする! ?大相談会

- ・地域で活動する上での悩みや困りごとの相談にのる相談会を4つの支援機関が合同で9/30に開催
- ・当日は、日本政策金融公庫、長浜ビジネスサポートセンター、長浜市社会福祉協議会・ボランティアセンター、ながはま市民協働センターの4つの支援機関から8人の相談員が対応
- ・相談者は12名で、複数の支援機関が連携して、アイデアやアドバイスを伝えた



8 市が保有する情報を利用して課題を解決する仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

多様な主体が、市が保有する公開データを利用して、使い勝手の良い新たなサービスを協働で開発・提供するなど、市が保有するデータを活用し、新たな視点から地域課題を解決する仕組みをつくりま

◆時層写真まちあるきワークショップ

- ・昔の写真を中心に、地域の方のお話を聞きながらまちあるきを行い、昔の写真と今の風景を重ね合わせた「時層写真」を撮影し、WEB上の地図サービスにマッピングするワークショップ
- ・多くの人にとって身近でオープンデータ化が可能な写真を切り口に、市民によるデータ活用を推進
- ・古写真を収集する取組みをされている南郷里地域づくり協議会と連携し、11月12日（日）に開催【参加者14人】



◆チャレンジ!! オープンガバナンス2023に応募

- ・チャレンジ!! オープンガバナンスとは、市民と自治体がオープンな姿勢で公開データを活用し、協働しながら地域課題に取り組んでいくオープンガバナンスを応援するコンテスト
- ・令和3・4年度に引き続き、今年度も課題を応募
テーマは『共に地域を創る「共創企業の創出」について』

9 先端技術を活用した地域課題を発見・解決する仕組みづくり（令和5年度の取組状況）

Society5.0やスマート自治体の実現に向けて取り組まれる実証実験への参画、多様な主体が協働で新しい技術やサービスの開発と利用・普及を進める拠点の設置など、AIやIoTなどの先端技術を活用することにより、これまでにない新しい方法で地域課題を解決する仕組みをつくります

◆DX実証実験プロジェクト

- ・デジタル技術を活用した実証実験に対する支援を通じ、DXによって、地域課題の解決や市民生活の質の向上につなげていくことを目的に実施
- ・補助対象経費の2/3以内、1件あたり上限300万円
- ・プロポーザルの結果、令和4年度は3プロジェクトを実施
- ・令和4年度は3件実施、令和5年度は4件実施中

令和5年度実証実験

- ・長浜市民の脱炭素型地域づくり促進事業（環境保全課）
- ・人工衛星データを活用した農業行政・農業生産に関するDX実証（農業振興課・農業委員会事務局）
- ・伝統文書の複製による次世代への文化の伝承と展示物解説サービスによる情報の効果的な周知、広報（文化観光課）
- ・長浜市内の中小企業×フリーランス・複業人材のマッチング事業（商工振興課）

市民協働事業（令和5年度の取組状況）

各主体からの提案に基づき、審査機関の審査を経て、多様な主体間の連携のもとで地域の社会課題解決を目指す事業を「市民協働事業」として制度化します

◆市民協働事業

- ・多様な主体の協働による地域の社会課題解決に向けた取組を推進するため、令和4年度に「長浜市民活動団体支援事業補助金」と「長浜市地域づくり協議会提案事業交付金」を統合
- ・団体と市との協働を進めるため、事業の提案段階から実施・完了に至るまで団体と市の担当部署が連携・協力しながら取り組む『市民協働事業』として改編
- ・令和5年度は8件の事業が採択され、団体と市の協働により実施中



市民協働事業（令和5年度の取組状況）

各主体からの提案に基づき、審査機関の審査を経て、多様な主体間の連携のもとで地域の社会課題解決を目指す事業を「市民協働事業」として制度化します

◆令和6年度に実施する事業の募集

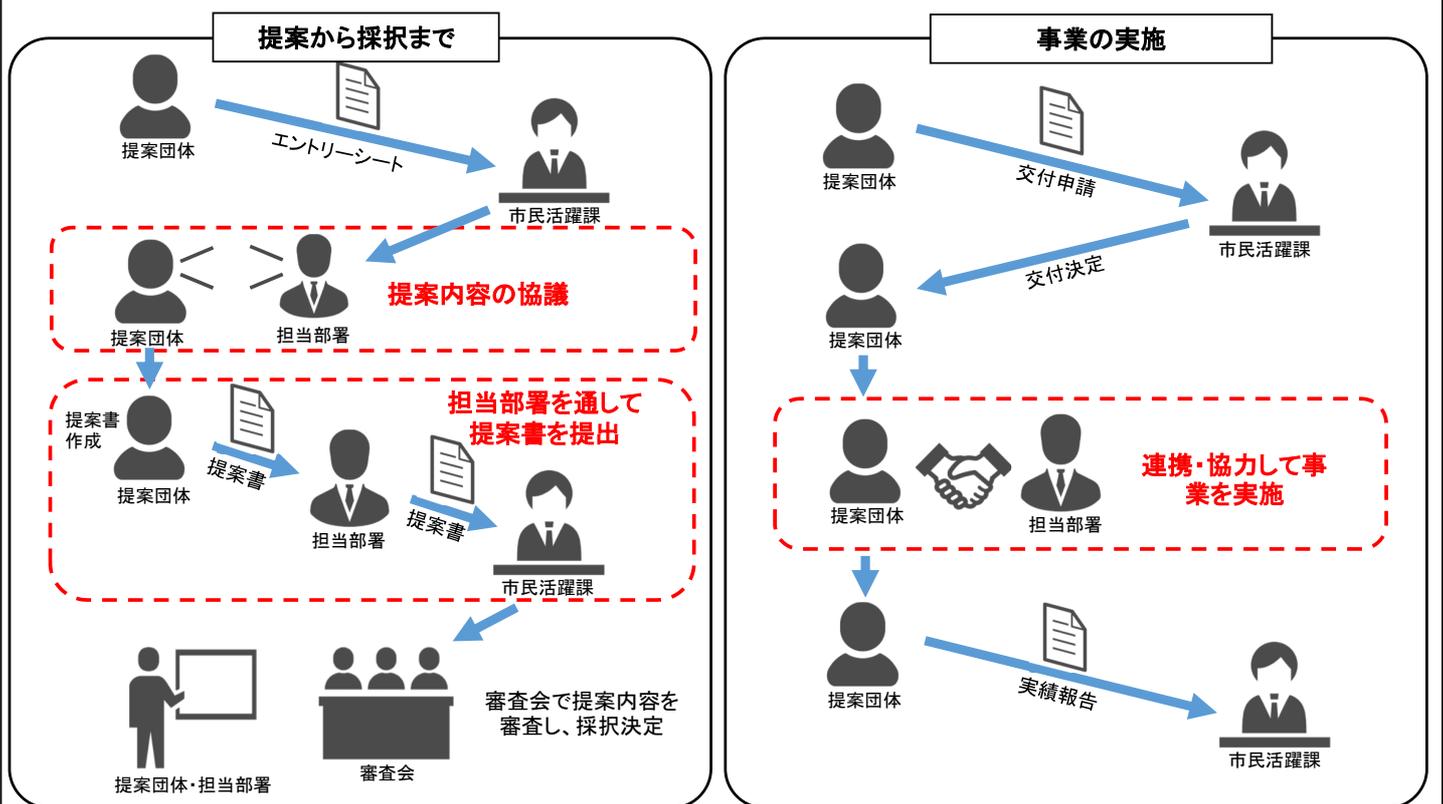
- 令和6年度事業の募集では、市民提案型に加え、行政提案型として3テーマで募集

	行政提案型協働事業テーマ	担当部署
1	若者にとって魅力的な文化・スポーツ環境構築事業	文化スポーツ課
2	～元気でいきいき 健幸老後のために～ 介護予防と生活改善講座	長寿推進課
3	脳トレ、eスポーツで いきいき交流、健幸に 「健康づくり活動の普及と定着への実証実践」	長寿推進課

- エントリーシートの提出が、市民提案型15件（新規7件、継続8件）、行政提案型6件の計21件
担当部署と協議の上、提案に至ったのが18件で、3月12・14日に公開プレゼンテーションを実施

提案区分	年数	件数	提案件数
行政提案型協働事業	1年目	6件	5件
市民提案型協働事業	1年目	7件	5件
	2年目	8件	8件

市民協働事業（令和5年度の取組状況）



市民協働事業の制度概要

対象団体 (提案できる団体)	<ul style="list-style-type: none"> 市内に主たる事務所若しくは活動拠点を有すること又は市内において事業活動を行っていること 団体の運営に関する定款、規則、会則等があること <p>⇒市民活動団体、自治会、地域づくり協議会等の地域団体のほか、企業等の事業者、その他の団体も可能</p>
対象事業	<ul style="list-style-type: none"> 公益的・社会貢献的な事業で、地域課題や社会課題の解決に資するもの 団体と市の役割分担が明確かつ妥当で、協働により実施する効果が期待できるもの
対象経費	報償費・旅費・消耗品費・印刷製本費・通信運搬費・広告料・保険料・使用料及び賃借料・原材料費・備品購入費・その他市長が必要と認める経費 ※食糧費及び団体運営のための経常的経費は除く。
採択方法	提案された事業を審査会で審査
補助率	8/10以内
補助金額	上限40万円

長浜市市民協働推進計画の改定について

1 改定スケジュール

- 令和2年6月に全面改定した現計画は、幅広い主体の参画と多様な主体の協働による持続可能で活力ある地域社会の実現に向けて9つの協働の仕組みを位置付け
- 現計画の計画期間が令和6年度末をもって満了することから、新型コロナウイルス感染症拡大をはじめとした社会情勢の変化等を踏まえ、令和6年度に計画改定を行う
- スケジュールは次のとおりで、市民協働推進会議や庁内の会議に適宜、諮りながら内容をまとめていく

年月	内容
令和6年4-5月	アンケート調査・ヒアリング実施 市民協働推進会議（改定方針）
6月	アンケート調査回答分析等 市民協働推進会議（検討状況報告）
8月	市民協働推進会議（中間報告）
10月	市民協働推進会議（素案）
令和7年1月	パブリックコメントの実施
2月	市民協働推進会議（最終案付議）
4月	次期計画施行

1

2 アンケートの実施

- 令和元年度に長浜市市民協働のまちづくり推進条例の制定と長浜市市民協働推進計画の改定にあたり、アンケートを実施
- 現計画の基本的な方向性を踏襲しつつ、現計画において課題となっているものについて、どのように変化しているかを捉える
- 設問内容は5年前の内容を基本にしつつ、設問や選択肢を見直す

【対象】

区分	サンプル数	備考
市民	2,000	18歳以上
地域づくり協議会	24	
自治会	426	
市民活動団体	100	市登録団体・NPO法人
市職員	700	正規職員

2

【市民】

◇属性情報（回答者の基本情報の把握）

- ・性別、年齢、居住地、居住年数、職業、家族構成

◇地域活動・市民活動の状況（活動への参加状況や活動の課題把握）

- ・地域への愛着や親しみ、関心の有無
- ・活動の情報収集方法
- ・過去1年間の活動の参加状況
 - ある ⇒ 活動団体、参加のきっかけ、参加して良かった点・負担に感じた点
 - ない ⇒ 参加していない理由
- ・活動の課題、活動を活発にするために必要なこと

◇協働の進め方（施策の方向性の検討）

- ・協働推進に向けて優先して取り組むべき施策

【地域づくり協議会】

◇基本情報（協議会の基本情報の把握）

- ・会長の選出方法、情報発信方法、構成団体

◇地域づくり協議会の活動状況（活動内容や住民の参加状況、課題の把握）

- ・住民の参加状況
- ・活動内容や他の団体との連携状況
- ・活動の課題、団体運営や活動の充実に向けて必要なこと
- ・新型コロナウイルス感染症による影響

◇協働の進め方（施策の方向性の検討）

- ・協働推進に向けて優先して取り組むべき施策

3

【自治会】

◇基本情報（自治会の基本情報の把握）

- ・自治会長の年齢、世帯数、自治会費
- ・自治会再編の意向、女性役員の割合、情報の発信・収集方法

◇自治会の活動状況（活動内容や住民の参加状況、課題の把握）

- ・住民の参加状況
- ・活動内容や他の団体との連携状況
- ・活動における課題と自治会運営や活動の充実に向けて必要なこと
- ・新型コロナウイルス感染症による影響

◇協働の進め方（施策の方向性の検討）

- ・協働推進に向けて優先して取り組むべき施策

【市民活動団体】

◇基本情報（団体の基本情報の把握）

- ・主な活動地域、活動年数、会員数、収入源

◇団体の活動状況（活動内容や住民の参加状況、課題の把握）

- ・活動内容や他の団体との連携状況
- ・情報発信方法
- ・活動の課題、団体運営や活動の充実に向けて必要なこと
- ・新型コロナウイルス感染症による影響

◇協働の進め方（施策の方向性の検討）

- ・協働推進に向けて優先して取り組むべき施策

4

【市職員】

◇基本情報（回答者の基本情報の把握）

- ・性別、年齢、勤務年数、職階

◇地域活動・市民活動の状況（活動への参加状況や活動の課題把握）

- ・仕事以外での活動の参加状況
 - ある ⇒ 活動団体、参加のきっかけ、参加して良かった点・負担に感じた点
 - ない ⇒ 参加していない理由
- ・今後の活動への参加意向
- ・業務における協働経験の有無
 - ある ⇒ 協働を経験した部署、協働の相手先、協働して良かった点、課題に感じる点
- ・市民等との協働の必要性とその理由、推進すべき分野
- ・協働する上で相手に期待すること
- ・市の協働推進施策の認知状況
- ・市民活動や協働に関する研修等の受講経験
- ・受講したい研修手法（市民活動・協働のまちづくり関係）

◇協働の進め方（施策の方向性の検討）

- ・協働推進に向けて優先して取り組むべき施策